

# 産学官連携による担い手確保の取り組み

## “宇国サマーフェス～1日道の駅～”

黒澤 知起<sup>1</sup>・伊藤 仁

<sup>1</sup>関東地方整備局 宇都宮国道事務所 計画課 (〒321-0931 栃木県宇都宮市平松町504)

近年、建設関連分野では若年層の就職者減少と高齢化により担い手不足が深刻化している。こうした中、栃木県内では産学官が連携し、建設分野の魅力発信と人材確保を目的に「とちぎ建設業魅力向上連絡協議会」を設立した。本稿は協議会設立の背景と枠組みを整理し、宇都宮国道事務所と共催で実施し、既存の「道の駅」も参加した「宇国サマーフェス～1日道の駅～」を事例として、地域住民との接点創出によって得られた建設関連分野に対する理解促進効果と、担い手確保に寄与する成果について報告する。

キーワード 建設業、担い手確保、魅力発信、産学官連携、道の駅

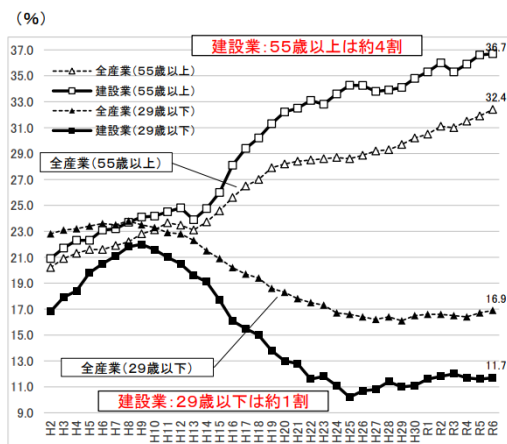
### 1. はじめに

建設業は地域のインフラ整備や災害対応など社会基盤を支える重要な役割を担っている。一方で、若年層の就職数低下や技能者の高齢化により担い手不足が深刻化している（図-1）。

これまで産（民間企業）・学（教育機関）・官（行政機関）が個別に広報・採用活動を行ってきたが、建設業のイメージアップについての波及効果が限定的であった。

このような課題に対応すべく、栃木県内では、産学官が連携して「とちぎ建設業魅力向上連絡協議会」（以下：協議会）を設立することとした。

本稿では協議会設立の経緯と狙いを整理した上で、協議会と共催した「宇国サマーフェス～1日道の駅～」(以下、サマーフェス)を事例に、体験型イベントによる理解促進効果と担い手確保に寄与する成果を報告し、今後の展望を述べる。



出典：総務省「労働力調査」（暦年平均）をもとに国土交通省で作成\*1

図-1 建設業就業者の高齢化の進行

### 2. 協議会設立の経緯と枠組み

#### (1) 設立の背景

建設関連分野を取り巻く社会情勢として、若年層の就職数低下や技能者の高齢化により担い手不足などの課題がある。こうした状況の中、産学官が一体となって業界の魅力発信と人材確保の枠組みを構築することが重要とされている。このため、2025年3月に宇都宮大学、栃木県建設業協会、栃木県、渡良瀬川河川事務所、宇都宮国道事務所が参画し、協議会設立に向けた準備会が立ち上げられた。

## (2) 構成と活動の方向性

協議会の構成メンバーには、産から栃木県建設業協会、学から宇都宮大学、足利大学、宇都宮工業高校、官から栃木県、宇都宮国道事務所等が参画している。

2025年5月の第1回協議会では、産学官で連携して取り組む行事の検討等を議論した（写真-2）。



写真-2 協議会の様子

これまで、各機関が単発で行っていた活動を、協議会として取り組むことで、建設分野の魅力向上や担い手確保のための活動を継続して行っていく。

その一つとして宇都宮国道事務所主催のサマーフェスに共催で協議会としても参加した（表-1）。

表-1 協議会の年間行事スケジュール（案）

No.	時期	イベント名	関係機関
1	6月21日	防災科学理数探究講座	宇都宮大学
2	7月～11月	高校生インターンシップ	栃木県建設業協会
3	7月26日	オープンキャンパス	宇都宮大学
4	7月28日	鬼怒川上流4ダム見学会	鬼怒川ダム統合管理事務所
5	8月23日	宇国サマーフェス～1日道の駅～	宇都宮国道事務所
6	10月25日	建FESGO!	栃木県建設業協会
7	秋ごろ	オープンキャンパス	宇都宮大学
8	3月	とちぎ建設業合同企業説明会	栃木県建設業協会

## 3. サマーフェスの企画と実施

### (1) 目的と基本方針

サマーフェスは、道路ふれあい月間の一環として宇都宮国道事務所のPRを行い、事業理解の促進や建設分野の魅力発信、担い手確保につなげることを目的に企画した（図-3）。

宇都宮国道事務所の業務は県内の道路整備や管理を担う重要なものだが、一般には十分認知されていない課題があり、サマーフェスでは体験を通

じて事業内容や意義を“わかる・伝わる”形で示す方針とした。

また、地域住民との接点創出の場と位置づけ、建設業への理解や親しみ向上も図った。

加えて、建設関連団体の協力を得て分野全体の魅力を発信するとともに、産学官が同じ場で協働する姿を来場者に示すことも狙いとした。



図-3 サマーフェスのチラシ

### (2) イベント内容

主催の宇都宮国道事務所は、災害対策車や建設機械の展示、子ども防災服撮影会、ドローン体験、クイズ・アンケートによるノベルティー配布、パネル展示を行った。協議会として、宇都宮国道事務所等は、パネル展示、クイズ・アンケート、ノベルティー配布を行い（写真-4）、栃木県は橋梁のVR体験、宇都宮工業高校音楽部は演奏を披露した。建設業協会は「重機と競争!!」を実施した（写真-5）。協力団体として、栃木県測量設計業協会や関東運輸局栃木運輸支局も参加し、測量体験やゆるキャラのてんけんくんの出演、ノベルティーの配布など、家族連れを主な対象とした。

また「道の駅」では、通常は現地でしか買えない物産品を会場に持ち込み、道路管理者と道の駅管理者が連携してイベントを盛り上げる役割を果たした。



写真-4 サマーフェスでの協議会の様子



写真-5 「重機と競争!!」の様子

### (3) 運営体制と周知

運営は若手中心で企画・調整を行い、複数班に分けて運営手順やシフトを作成した。

スタッフは宇都宮国道事務所職員等57名、OB（防災エキスパート3名）、鬼怒川ダム統合管理事務所、利根川上流河川事務所、渡良瀬川河川事務所の9名を募り体制を構築した。

広報は自治会・小学校へのチラシ配布、記者発表、ホームページ、SNS投稿を組み合わせ実施した。また、記者発表によりイベントの目的や道の駅連携の意義を対外的に示した。

## 4. 成果の整理

### (1) 来場者数と動向

本イベントは来場者数を300名想定として準備したが、当日は約400名が来場し想定を上回った。

### (2) アンケートによる評価

協議会ではアンケートを実施し、サマーフェス参加者の大人から子どもまで計114名（大人83名、小学校高学年～中学生15名、小学校低学年16名）から回答を得た。

「建設業に興味をもちましたか」の設問では、大人の95%が「興味をもった」と回答した一方、小学

校高学年～中学生では47%にとどまり、この層へのアプローチに課題が見られた（図-6）。小学校低学年向けの「建設の仕事に興味を持ちましたか」では63%が「はい」と回答し、半数以上が関心を示した（図-7）。

「将来、建設業に携わってみたい（または誰かに勧めたい）」の設問では、大人・小学校高学年～中学生ともに前向きな回答は半数以下にとどまり、小学校低学年の「将来、建設業の仕事をしてみたい」は29%であった（図-8、図-9）。

自由記述では「楽しく学べた」「貴重な体験になった」「事務所を身近に感じた」など肯定的意見が多く、建設分野への好感や宇都宮国道事務所への理解促進につながったと考えられる。

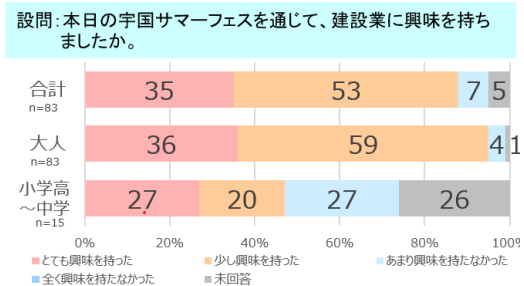


図-6 サマーフェスを通じた建設業への興味・関心

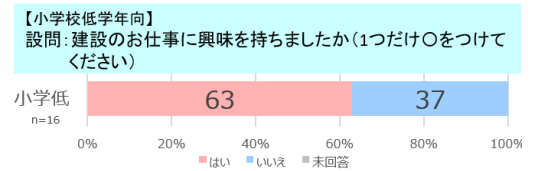


図-7 サマーフェスを通じた建設業への興味・関心

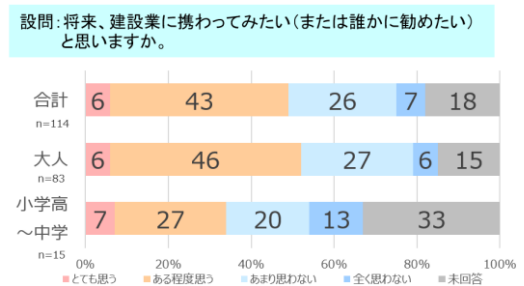


図-8 サマーフェスを通じた建設業への意向

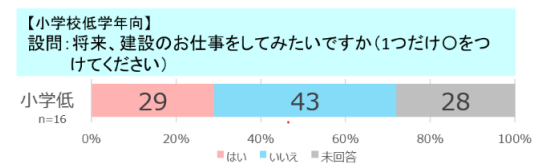


図-9 サマーフェスを通じた建設業への意向

## 5. 課題の整理と考察

サマーフェスは来場者の建設産業分野への理解促進も確認できたが、年1回の開催では効果が一時的になりやすい。そのため、SNSや動画などデジタル技術を活用した継続的な情報発信により、日常的に建設業へ触れる機会を増やし、興味・関心の拡大を図ることが有効である。

また、「将来、建設業に携わってみたいか」の設問では、小学生低学年・高学年～中学生とも「はい」が35%未満であったことから、若年層への魅力発信を強化し、将来の担い手確保につなげる必要がある。そのため、児童向けの講演会・体験会や、高校生向けの産学官合同説明会などを実施し、建設産業を将来の選択肢として認識してもらう取り組みが求められる。

さらに、同設問で大人の49%が肯定的に回答していることから、保護者層が建設業に好意的な印象を持ち始めていると考えられる。この認識向上は子どもの職業観に影響し、家庭内での前向きな会話を促す契機となる。すなわち、大人の関心の高まりは来場者満足にとどまらず、親から子へ建設業の魅力が伝わる効果を生むと考えられる。

## 6. 今後の展望

今後は、協議会の活動を継続・発展させつつ、イベントの内容と運営方法を見直し、満足度向上と継続性確保を両立させる必要がある。

第一に、SNS（YouTube・Instagram等）を含むデジタル発信を強化し、イベント当日以外の接触機会を増やす。

第二に、アンケート結果から小学校低学年～中学生の関心が比較的低かったことから年代への早期アプローチが有効であると考えられる。今後は、小学生段階では「仕事を知る・楽しむ」要素を主とした講演会や体験会を実施し、高校生へは産学官合同の企業説明会や進路ガイダンスと連携させることで、将来の選択肢として建設産業分野を認識してもらう環境を造っていく必要がある。

第三に、同様の設問で大人の半数が建設業に対

して好感を持っていることから、保護者層への働きかけを強化する必要がある。保護者の理解向上は子どもの進路意識に影響するため、親子向けの現場見学会や体験型プログラムを通じて家庭内での前向きな対話を促すことが有効である。これら若年層・保護者双方への継続的なアプローチにより、建設業の理解促進と将来の担い手確保に向けた基盤形成が期待される。

## 7. まとめ

産学官連携の枠組みである協議会が設立され、統合的な魅力発信の体制が整備された。協議会と共催したサマーフェスでは、「様々な建設分野を拝見でき貴重な体験になった」「宇都宮国道が何をしているところか知らなかったが事務所を身近に感じた」等の肯定的意見が多かったことから、理解促進に一定の効果が確認された。さらに、地域住民との接点創出の場の親近感やとして機能した点も重要であり、建設業へ認知向上にも寄与した。

イベントによる興味喚起と理解促進を起点に、デジタル発信・学校連携・企業説明会等を組み合わせたアプローチを継続的に展開することが、地域における建設産業分野の担い手確保に資する有効な方策であると考えられる。



写真-10 上空から見た宇国サマーフェスの様子

### 参考資料

1) 引用：国土交通省 不動産・建設経済局  
建設振興課

<https://www.mhlw.go.jp/content/11600000/001566406.pdf>